

天白まちづくり会報

(第3号)

天白まちづくり協議会（天白公民館内）

平成22年1月1日発行

新年 あけましておめでとうございます！

新年のごあいさつ



天白まちづくり協議会

会長 伊藤 末治

天白地区の皆様、新年おめでとうございます。

昨年、天白まちづくり協議会を立ち上げ4月より諸々の行事を行うことができましたのも皆さんのご協力の賜物と感謝しております。

さて、市内には13のまちづくり協議会が設立され、それぞれの地域の独自性を活かしながら市政の主人公は私達であるのだという自覚のもと、住民自治の拡充のため皆さんにご努力を願っています。過日行われました天白地区市民懇談会や住民協の代表との懇談会の席上でも山中市長は、市と地域の関係について、「住民協議会の位置づけのもとで権限と役割をもったいただけるあり方を考えていきたい」といわれました。

また、平成24年4月には市内全地区に住民協の設立を目指したいとのお話でした。

このような市の主旨からも2年目を迎えた天白まちづくり協議会のさらなる発展のために、私も微力ながら役・委員さんと協働し、誠心誠意努力することをお願いします。新年の挨拶いたします。



新年にあたり

三雲地域振興局

局長 堀 隆行

新年明けましておめでとうございます。

天白まちづくり協議会の会報「一言」挨拶申し上げます。

天白地区は、三雲地域の中央に位置し、天白公民館を中心に11自治会で構成され、約20

00世帯、人口約5400人と三雲地域の約40%の人たちが生活しております。

また、当地区には、中央に基幹国道23号線が通り、地域振興局やハートフルみくも、南幼稚園、地区公民館などの公共施設が整備されています。

一方では、三渡川や碧川が流れ、河口から海岸線につながる豊かな自然環境は、地区住民にやすらぎと潤いを与えてくれています。

しかし、近年は、分譲住宅やアパートなどが急増し、生活環境や教育・防災・交通安全・都市計画など多くの課題も出てきています。

こうした課題を克服し、安心して安全に暮らせる地域にするためには、行政による安心安全対策とともに、地域住民による自主的なまちづくりの確立が必要で。

この地区では「互助・共生の郷」を目指して、平成21年3月、天白まちづくり協議会が、三雲管内の第1号(松阪市で11番目)として発足しました。

天白まちづくり協議会では、5つの専門部会と具体的な事業目標を掲げ、昨年7月には夏まつり、10月には地区住民挙げての環境美化活動などのふれあい事業を、皆さんの協力のもと実施することができて大変嬉しく思っております。

今後、こうした事業が地域に根付き、皆さんのコミュニケーションの場になっていけばと願うものであります。

そしてもうひとつ、嬉しい動きがあります。それは、天白まちづくり協議会や笠松環境保全協議会など、校区を越えての賛同団体による「碧川周辺地域の自然と環境を守る会」が発足され活動がスタートしたことです。

この「碧川周辺地域の自然と環境を守る会」とは、天白地区と鶴地区の境界を流れる碧川周辺部のハマボウの群生や秋の黄紅葉、ガン・カモなど多数の野生鳥類、笠松町水路の河津桜の植樹など碧川周辺の自然景観の美しさを再発見して両地区の宝として保全し、みんなで「魅力ある農村」にしていくための会

です。

この会を通じて、地域の皆さんが心を合わせ「地域をよくしていこう」という思いで、いつか碧川を挟んで大きな虹がかかることを楽しみにしたいと思います。

三雲地域振興局といたしましても地域に埋もれている自然財産を活用し「地域の輝き」を掘り起こして地域おこしにつなげる支援に力を入れていく政策のもと、天白地区の素晴らしい活動を支援し、住民の皆さんがいきいきと楽しく生活できるように共にまちづくりに取り組んでいきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。



去年はこんな事が・・・

10月18日、環境美化部（森嶋宏部長）の行事として「天白地区クリーン作戦」が実施されました。自治会・振興局職員で地域内を、併行開催の青少年健全育成協議会の皆さんで通学路を中心に総勢300人余りでゴミを収集しました。皆さん大変ご苦勞様でした。協議会では、地域の住環境向上の為、これからも計画的に実施しますのでご協力をお願いします。



いっぱい回収できたかなあ？

昨年3月14日、「天白まちづくり協議会設立総会」が開催され、松阪市としては、11番目、三雲管内としては最初の住民協議会として設立されました。



挨拶をする山中市長



- 環境美化部では、「ポイ捨て禁止運動」啓発用看板の設置について、振興局地域住民課と協議を重ね、自治会の協力を得て、地区内の33箇所に「ごみの不法投棄禁止」の看板を設置しました。
- 捨てる前に「資源」として再利用ができないかを考えましょう。



ハートフルでの「市民懇談会」の様子

10月21日ハートフルみくもにて「市民懇談会」が開催され、80名ほどの参加がありました。

市長より住民が主体のまちづくりの必要性、重要性についての説明があり、市からの活動交付金などは、住民自らが優先順位をつけ、地域の個性を活かした、まちづくりに活用していただきたいとの事でした。

その後、政策部まちづくり推進課職員より、必要性や活動内容について、詳しい説明があり閉館間際まで活発な意見交換等が行われました。

※詳細については下記に記載させていただきます。

市民懇談会でのまちづくり協議会の必要性や活動内容についての説明（要約）

- ① 天白まちづくり協議会は、平成21年3月14日に設立総会が開催され、全域では11番目、三雲管内では最初の住民協議会である。市内43地区で現在13地区が設立を済ませている。
- ② 広い松阪市では、地理的条件・歴史文化・住民生活等、多種多様に渡っているが、それぞれのニーズにあった行政はできず、どうしても画一的になりやすい事から、地域の特性を一番知っている地域住民が、地域の目で解決していくのが1番である。
- ③ 地域でまちづくりを行う為には、民主的に意見をまとめ多様なニーズ・課題に取り組むには、組織としての協議会が必要であり、範囲としては自治会では小さく、中学校区では互いの顔が見えず、小学校区が最適と考えている。
- ④ 地域住民の声やアイデアが各事業に活かされる事により、まちづくり活動に意欲や、やりがいを持つ住民が増える事により、協議会の活動が活発になり、地域の活性化につながる。
- ⑤ 地域の特性を活かした地域の将来像として地域計画を策定していただきますが、今後における市の総合計画など重要な計画を策定する時には、地域計画を出来る限り尊重します。
- ⑥ 設立済みの天白まちづくり協議会に対しては、補助金の見直しによる活動交付金の増額や職員によるサポートなど引き続き支援を強化し、連携を図っていきます。



発言する安井副会長

11月7日、松阪市役所において現在設立されている13地区の住民協議会から28名（当協議会からは、安井副会長が参加）が参加し、朝見まちづくり協議会の鈴木事務局長の進行で進められ、山中市長の挨拶の後、まちづくり推進課よりの「これからのまちづくりの仕組み」についての説明に続き、各協議会から活動状況報告と質疑応答が行われました。



11月29日、振興局地域住民課主催で「健康ウォーキング」がハートフル周辺で開催され76名の参加がありました。健康面はもちろん歩く事が楽しくなるまちづくりを目指す事から、当協議会の健康福祉部（米倉好晴部長）も共催。約4キロの道のりを50分程度かけて楽しく歩きました。

これからの行事予定等です

1月10日(日) ○たこあげ大会 10時～12時 ハートフルみくも 東側駐車場
昨年まで公民館主催で行っていた「ふれあいたこあげ大会」が本年度から当協議会教育文化部(西村武史部長)との共催事業となりました。



今回から子どもだけでなく、おとなを対象とした団体・個人の部門も創設しましたので多数のご参加をお待ちしております。

申込みは、1月8日(金)までに天白公民館(56-7920)へ。但し、当日の飛び入り参加も歓迎いたします。

大会には、次の表彰部門と参加者全員に参加賞・豚汁があります。
子ども部門・・・飛翔賞、デザイン賞、頑張ったで賞、特別賞を各3名ずつ
おとな部門・・・最優秀賞、優秀賞それぞれ1チームと特別賞全チーム
※雨天の場合は、11日(月・祝日)となります。

3月28日(日) ○カーフミラーの清掃 8時30分から
たくさんの皆様のご協力をお待ちしております。

防犯防災部(荒瀬達雄部長)からのお知らせ

火を使う時期ですが、いざと言う時は・・・そう、消火器を使いますが、無限のものではありません。

消火器の使用期限は8年です。8年を経過した物は、外観に損傷等がなくとも交換しましょう。いざ使用の際に役に立たない事があります。また8年が経過しなくとも、傷やへこみがある場合は、破損の恐れがありますので交換しましょう。12月2日より新しい消火器を購入する際は、他社の消火器でも引き取ってもらえる様になりました。詳しくは、お近くの取扱店でお尋ねください。

☆それ以上に、火から目を離さない事が一番大切です!

お詫び

21年度行事計画の中の全体事業で計画していました「作品展示会」は、準備不足の為、実施しない事となりましたのでご報告いたします。

次年度からは早期に着手して、盛大に行いたいと思いますのでご協力いただきますようお願いいたします。

あとがき

協議会は何をするの? なぜ必要なの? 等のご意見をいただきますが、本紙3ページにもその件について記載をさせていただいています。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

また広報誌も皆様になるべく、見やすいように工夫を重ねていきますので、ご愛読をお願いします。委員一同